

総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向けた取組について

資料 持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向けた取組について

令和5年2月8日

総務企画局

1 SDGs推進の経緯

(1) SDGsの概要

- SDGsは、平成27年9月に国連本部において193の国連加盟国の全会一致で採択された国際目標であり、持続可能な未来をつくるための17のゴール（目標）と169のターゲットで構成
- 「誰一人取り残さない」をキーワードに、令和12(2030)年までのゴールの達成に向けてすべての国が行動すること、自治体も事業者も市民も含めてすべてのステークホルダーが役割を担うこと、経済・社会・環境の三側面の取組を統合的に進めることなどを特徴としている。

(2) 国の動向

- 国は、平成28年に「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置するとともに、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定
 - 地方自治体に対して、各種計画や戦略、方針の策定や改定にあたりSDGsの要素を最大限反映するとともに、関係するステークホルダーとの連携強化等、SDGs達成に向けた取組の推進を求めている。
- ※さまざまな課題を市民、事業者と連携して克服してきた歴史と、持続可能な社会の実現に向けた取組が国から評価され、本市は、令和元年に「SDGs未来都市」に選定

(3) 市の取組

- 「持続可能な開発目標（SDGs）推進方針」（平成31年策定）を、令和4年に総合計画第3期実施計画と統合し、総合計画の施策・事務事業とSDGsの達成に向けた取組を一体的に推進
- 第3期実施計画においては、全事務事業についてSDGsのゴール・ターゲットとの関連を記載し、本市が進める各施策とSDGsとの関係を明確化
- 「川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を中心に、関係部署間相互の連携を推進するとともに、職員理解を図るため研修等を実施



- 市として、SDGsの推進に向けて、総合計画を推進することを基本に、経済・社会・環境の三側面の調和を図りながら、様々な事務事業と一体的に取組を進める。
- SDGsのゴール達成に向けて、多様なステークホルダーとの連携を図るとともに、市民、企業、団体等の主体的な取組を支援する。



2 本市のSDGs推進に向けた具体的な取組

(1) 連携のしくみづくり

<SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」>

- SDGs達成に向けた市内事業者の取組の「見える化」を行い、様々なステークホルダーや地域金融機関と連携して市内事業者への支援を実施するしくみとして、令和3年3月から、市内でSDGsの達成に向けて取り組む企業・団体を「かわさきSDGsパートナー」として市が登録・認証する制度を開始

●2段階のしくみ

登録：SDGsの達成に向けて取り組むことの意味表示（宣言）
 認証：SDGsへの取組の自己評価・今後に向けた目標設定



●パートナー数

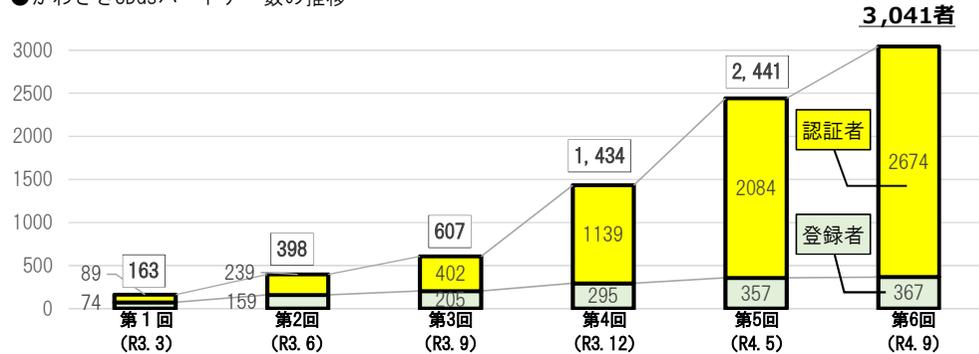
幅広い業種の事業者が参加しており、令和4年9月に実施した第6回募集までで3,041の事業者を登録・認証している。
 ※令和5年1月31日時点のパートナー数は3,040者



●認証のインセンティブ

市融資制度「SDGs取組支援融資」による信用保証料補助
 市入札契約制度の「主観評価項目制度」における加点

●かわさきSDGsパートナー数の推移



●かわさきSDGsパートナーの業種

建設業	29.6%	専門・科学技術、業務支援サービス業	3.0%	教育（PTAを含む）	1.3%
製造業	15.4%	保健衛生・社会事業（医療法人、保育園など）	2.2%	NPO	1.3%
卸売・小売業	11.6%	情報通信業	2.0%	金融・保険業	0.6%
不動産業	4.6%	学校（幼稚園、小・中学校、高等学校、大学など）	1.9%	農林水産業	0.1%
宿泊・飲食サービス業	4.0%	市民団体	1.8%	鉱業	0.1%
運輸・郵便業	3.1%	電気・ガス・水道・廃棄物処理業	1.7%	その他のサービス	15.6%

持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向けた取組について

<川崎市SDGsプラットフォーム>

- 多様なステークホルダーとの連携を強化し、そのゴール達成に向けた取組を支援するための具体的なしくみとして、令和3年3月に川崎市SDGsプラットフォームを設立
- 地域金融機関である川崎信用金庫が共同事務局として参画し、川崎市産業振興財団等のコアメンバーとともに、「かわさきSDGsパートナー」と連携して本市におけるSDGsの取組を推進

川崎市SDGsプラットフォーム

事務局：川崎市・川崎信用金庫

川崎商工会議所、川崎青年会議所、川崎市産業振興財団、かわさき市民活動センター、川崎市地球温暖化防止活動推進センター



<かわさきSDGs大賞（令和4年10月24日最終選考・表彰式）>

- SDGsの推進に向けた具体的な取組の普及及び推進を図るため、「かわさきSDGsパートナー」の優れた取組を表彰する「かわさきSDGs大賞」を令和4年度に初開催
- 最終選考は、応募総数44件の中から、1次選考、2次選考を通過した5者による公開プレゼンテーションを実施し、大賞、優秀賞及び特別賞を決定

賞の種類	概要
かわさきSDGs大賞	<p>有限会社グリーンフーズあつみ・おつけもの慶 「食」を通じた地域社会への貢献とフードロスの削減、環境保護への推進事業」</p> <p>様々な食材・地産地消・販売用容器のプラ削減などの業務改善の取組を無理なく出来る範囲でバランスよくSDGsと結び付けて行っており、幅広く他の団体の参考となる取組</p>
優秀賞	<p>株式会社DeNA川崎ブレイブサンダース 「川崎ブレイブサンダース SDGsプロジェクト「&ONE」」</p> <p>ホームゲームでSDGs17目標すべてにチャレンジする「&ONE」の取組で地域の小学生や障害者の方を巻き込んだ多くの取組を進め、名門スポーツチームとしての発信力を活かして多くの人にSDGsを意識させるきっかけとなっている取組</p>
特別賞	<p>NPO法人studioFLAT 廃材予定だった布を蘇らせるため、障がいのある方たちを中心に共同作業で織る「Kawasaki Saori Artプロジェクト」</p> <p>ten株式会社 地域共創により、廃棄される「おから・摘果果物」を活用した地球環境にやさしい循環型商品の開発</p> <p>NECプロボノ倶楽部・川崎市立川崎総合科学高等学校 「共創開発でのオンラインポッチャの普及、川崎から世界へ共生社会実現の挑戦」</p>

<SDGsモデル事業支援補助金>

- SDGsの達成に資するモデル事業を創出して市内におけるSDGsの取組の普及・促進を図るため、令和4年度に試行実施。
- 対象事業
 - ・パートナーが主体となり、他の事業者と連携して行う取組
 - ・事業実施により達成を目指すSDGsのゴールが明確で、新たに実施する取組又は既存の事業を改善・拡充する取組
- 補助の概要
 - ・1件あたり 補助率2/3以下かつ補助限度額100万円

代表事業者	事業概要	交付額
特定非営利活動法人エミフル	<p>「廃棄予定の資源の循環・活用」のエコ活動および「地域クリーン活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣のビール工場から廃棄される麦芽を障害者就労施設にて粉にして食品を製作し販売 ・寺院で廃棄される塔婆を障害者就労施設で焼却・粉碎し、土に戻して町内の美化活動に使用 	536,800円
株式会社ナンバーバル	<p>かわさきカンキツオイルプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市内産の柑橘類（規格外品）を中心とした精油の製造を行い、マスクスプレーを始めとした香りの製品を開発 ・マスクスプレーの充填・ラベルの貼り付けなどを福祉事業所へ業務委託 	463,200円

<分科会>

- パートナー間によるSDGsの達成に向けた課題の検討や知見の共有及び取組の具体化に向けた研究などを行うことを目的に、令和4年度から設置
- パートナーからの提案に基づき、現在、6つの分科会でパートナー同士が協力・連携し、お互いの強みやノウハウを活かして、自主的に活動している。



分科会名	活動内容
海の豊かさを守る from かわさき 5団体	海の環境問題について、ビーチクリーンアップやリパーククリーンアップなどを通して、陸上から海にごみが流れ込んでいることを理解したり、セミナーやワークショップの開催などで、今、何が起きているのかを多くの人に知ってもらうことを目的に活動。
次世代向けSDGsチャンネル 14団体	小学生をはじめ、中学生・大学生までの学生をターゲットにした企業等のSDGs活動のコンテンツを提供し、企業訪問や出前講座など学校と企業をマッチングするためのポータルサイト「次世代向けSDGsチャンネル」の構築を目指して活動。
端材「新」活用研究会 2団体	企業の生産活動において継続的に発生する「端材」を単純に廃棄するのではなく、有効活用するモデルの検討・構築を目指して活動。
健康経営を探索し構想し実現を目指す 4団体	健康管理を経営的な視点で考え、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらす、業績向上や株価向上につながる戦略的な実践を目指して活動。
子どもたちへの寄付スキーム 15団体	子どもの成長とあふれる笑顔を実現するため、企業や家庭でやがて廃棄されてしまう災害時用の非常食や文具などが、寄付等を通じて必要な子どもたちに届くサイクルの構築を目指して活動。
「3.すべての人に健康と福祉」福祉の面で達成する会 8団体	高齢者福祉施設を対象に、参加メンバーが持っている知見・製品・サービス等を活かして相乗効果により、利用者・運営者のニーズを充足し、質の高い生活をそれぞれが楽しみ、満足した生涯を送ることができる「かわさき」を目指して活動。

持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向けた取組について

<フォーラム・セミナー（令和4年度）>

- 川崎プレイブサンダースとの共催によりフォーラムを2回開催し、企業の先進事例や、より実践的な取組を共有
- 川崎市SDGsアドバイザーである、慶應義塾大学大学院の高木特任助教によるセミナー（講演）を、SDGs実践のヒントを得ることを目的に、国際環境技術展との連携により実施

令和4年7月1日	SDGsフォーラム	川崎プレイブサンダースとの連携	川崎市コンベンションホール（約170名参加）
令和4年10月24日	セミナー（講演）	川崎市SDGsアドバイザーによる講演	川崎信用金庫本店（約40名参加）
令和4年11月18日	セミナー（講演）	国際環境技術展との連携	カルッツかわさき（約50名参加）
令和5年1月26日	SDGsフォーラム	川崎プレイブサンダースとの連携	フロンティビル（約60名参加）
令和5年3月24日（予定）	セミナー（講演）	川崎市地球温暖化防止活動推進センターとの連携（予定）	川崎市役所

<かわさきSDGsポータルサイト>

- 令和5年1月から運用開始

ポータルサイトの主な機能
登録・認証制度への申請等の効率的な運用
メッセージ送信等のパートナー同士の交流機能
パートナーの活動の見える化による市民理解の促進



(2) SDGsに係る施策・事業の展開

- ESG投融资の普及による脱炭素経営等の促進や、小中学生が活動している麻生区SDGs推進隊の取組支援など、局区においてSDGsに係る施策・事業を推進

(3) 市民への普及促進

<東急SDGsトレイン>

- 東急株式会社が運行する「SDGsトレイン」に本市の取組を紹介するポスターを掲出し、SDGsの普及啓発を推進
- 運行期間：令和2年9月から令和5年3月まで（予定）（1年を4クールに分けて掲示内容変更）
- 運行区画：東横線、田園都市線、世田谷線及び相互直通区間



<その他>

- 市政だよりや、教育だより、かわさきFM、ポータルサイト等でSDGsの理解促進を図るとともに、川崎フロンターレ主催のSDGsランドや、国際環境技術展等のイベントへの出展、出前講座など市民への普及促進に努めている。



(4) 教育機関との連携

- パートナーと連携し、東柿生小学校（里山を持続可能な環境にする活動）、東小倉小学校（SDGsに向かう大人たちをテーマに授業）、大島小学校（大豆ミートを使った給食を考案）、県立多摩高校（対話を通じてSDGsを深く学ぶ授業）等へ出張授業を実施

<平間小学校 ジャパンSDGsアワード 特別賞（第4回JapanSDGsアワード（令和2年））>

- 平間SDGsフェスははじめとする多くのステークホルダーを巻き込んだ取組や、全ての学年での多様な取組、市内外への発信、など多岐に渡る活動が認められ受賞

3 今後の方向性

- 企業・学校など3,000者を超えるかわさきSDGsパートナーを中心として「持続可能な開発目標（SDGs）」の取組の輪が広がってきている。
- イベント出展や学校への出前講座への協力のほか、自主的に活動する分科会も立ち上がり、パートナーが一緒になってゴール達成に向けて取り組むなど、事業者同士の連携も進んできている。

これまでの取組を引き続き推進するとともに、以下の取組を重点的に進め、取組を加速させていく

<ネットワークづくりの強化>

- 連携のきっかけづくりに向け、フォーラムやセミナーを引き続き開催するとともに、パートナーのマッチング支援などネットワーク構築に向けた取組を推進する。
- 稼働したポータルサイトを活用した、パートナーの取組の見える化やメッセージ送信機能など、交流機会の促進を図り、パートナー同士の連携に向けた取組を進める。

<取組の具体化支援>

- かわさきSDGs大賞を開催し、市内の優良事例を共有することで成功事例の横展開を図り、パートナーの取組の具体化を支援する。
- 新しい価値の創出に向けて、自主的に連携して活動している「分科会」を引き続き支援し取組を加速させるとともに、新たな分科会の立ち上げ支援を行い、連携の輪を広げる。
- モデル事業の創出に向けた補助金制度について、令和5年度から本格実施し、連携した取組の具現化を推進する
- SDGsの視点を踏まえた施策・事業展開に向けて、川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進本部等を通じて、局区の施策の連携を推進するとともに、市内のSDGs推進事例の共有を図る。

<市民へのより一層の理解促進>

- 市の広報媒体や、かわさきFMなどを活用し、SDGsを分かりやすく伝えるとともに、パートナーの活動の見える化し、その取組の発信や事例を共有することで、地域で活動している事業者のSDGsの取組を通じて、市民への一層の理解促進を図っていく。

4 令和5年度のスケジュール

	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
ネットワークづくりの更なる推進		セミナー ●	セミナー ●	フォーラム ●
ポータルサイトの運用				●
		●第8回パートナー募集	●第9回パートナー募集	●第10回パートナー募集
連携した取組の支援強化	募集、1・2次選考	かわさきSDGs大賞 ●		
				●
				●
				●
市民へのより一層の理解促進	情報発信			●